



交通権学会ニューズレター トランスポート 21



第 19 号 2004 年 8 月 1 日

—— お知らせ ——

① ニューズレターをお届けします。

大会に参加されなかった方 予稿集ダウンロードできます。
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/kotsuken-gakkai/adm/adm.htm>

② 2004 年度分会費の納入をお願い致します。(既納の方には振替用紙を同封してありません*1.)

③ 会員調査用紙を返送してください。(昨年度に返送された方には用紙を同封してありません。)返信用封筒にて 8 月 31 日までに返送をお願いいたします*2.

*1 振込み後、郵便局の手続きが完了し事務局に通知が届くまでに 1 ヶ月ほどかかることがありますので、既納の方に振込用紙が届きました時にはご容赦下さい。

*2 返送されなかった方には、既存の名簿の情報がそのまま引き継がれますので、ご了解願います。

交通政策を形のあるものにしてゆくために、大きな社会的責務を負っているといっても過言ではありません。特に今年は、先進的な都市交通政策を実行しているソウルから講師をお招きし、特別プログラムを企画いたしました。(当日配布の【開催趣旨】より)

なお、本プログラムは、交通権学会と日本環境会議・環境再生政策研究会との共催であり、近畿弁護士会連合会、財団法人公害地域再生センター、交通政策研究会の後援をいただきました。

(1) 基調報告

・黄祺淵 (Hwang Keeyeon; ソウル市政開発研究院上級研究員): 「清溪川復元事業マスタープラン」

(2) コメント

・塩崎賢明: 「清溪川復元プロジェクトの意義と課題」

・山之内桂: 「都市環境再生のための弁護士会の取り組みと清溪川復元プロジェクト」

(3) 関連報告

・永井進: 「道路の再構築と交通需要管理」

・上岡直見: 「都市環境再生の数値的指標～都市内自動車交通の社会的費用」

—— 目次 ——

- I. 研究大会・総会速報
- II. 理事会からのお知らせ
- III. 特別部会 (交通権学会の成果を普及する=交通権の思想の普及) 活動報告
- IV. 学会誌/ニューズレターの原稿を募集しています
- V. 本会の行事案内
- VI. [投稿] 南海貴志川線見学報告
- VII. 情報ファイル

2. 自由論題報告

・修理大司: 「九州新幹線・鹿児島ルート開業に伴う第3セクター鉄道化の問題について—肥薩おれんじ鉄道—」

・宮沢康則, 他: 「ワンコインバスの導入状況について」

・林久和, 他: 「地下鉄ホーム転落事故の統計的分析—大阪市営地下鉄のケースを中心に」

・川村雅則: 「規制緩和のもとでのハイ・タク労働者の状態と運動の課題」

・塚本敬: 「道路にいくらかかっている」

・金井恵利可: 「道路事業と住民参加」

・国府田諭: 「都市交通問題の解決と住民合意形成」

・松原光也: 「福井市における路面電車に対する意識」

・西村弘: 「交通政策理念再構築と交通権」

3. 総会議事概要

(1) 議事

議案 1 2003 年度事業報告

・2003 年度研究大会・総会開催 (7 月 12~13 日; 東京情報大学)

・会誌「交通権」発行 (第 21 号/2004 年 5 月),

・ニューズレター「トランスポート 21」発行 (第 17 号/2003 年 8 月 20 日, 第 18 号/2003 年 12 月 25 日),

I. 研究大会・総会速報

第 19 回研究大会・総会が 2004 年 7 月 10 日(土)~11 日(日)の二日間に亘って、大阪市立大学 (大阪市住吉区) にて行われました (第一日目参加者 72 名 (共催団体所属者を含む)).

1. 特別プログラム『都市の環境再生と交通権 —世界の大都市の経験と教訓—』

21 世紀を迎え、従来の延長線上の交通政策の行き詰まりが指摘されるとともに、新しい枠組みの提案が求められています。間もなく 20 周年を迎える当学会は持続的な交通をめざして、さまざまな研究を行うだけでなく、各地の市民運動と連携して、

- ・研究助成（森すぐる会員「身体障害者による公共交通機関利用権確立運動」）、
 - ・北海道部会（2003年11月13日）、関東部会（2002年12月7日）、中部関西部会（2004年1月10日）の活動報告、
 - ・国際交流活動（韓国緑色交通運動設立10周年シンポジウムへ土居靖範会員（会長）、上岡直見会員（事務局長）が出席し報告した（通訳・調整は藤田崇義会員））、
- 等について、原案通り承認されました。

議案 2 2003 年度入退会・名誉会員に関する報告

- ・下記の入会者（17名）／退会者（4名）について理事会にて審査し、承認したことが報告されました。
- ・入会者（敬称略）：中島廉、修理大司、西村健太郎、水谷昌志、井上桜、林工、池田昌博、伊藤尚博、川原敏次、室田惇史、益田牧子、三浦辰哉、金子友信、酒井久雄、松原光也、松川由実、青山泰人。
- ・退会者（敬称略）：和田浩、木村保男（以上、申し出）、他 2 名（4年以上会費滞納）。

議案 3 名誉会員の指名

- ・名誉会員の指名はありませんでした。

議案 4 2003 年度決算・2004 年度予算

- ・2003 年度決算報告（資料 1）が承認されました。
- ・2004 年度事業計画（資料 2）、予算案（資料 3）が承認されました。

議案 5 研究助成金の審査結果報告・助成金目録進呈

- ・2 件の応募があり、審査の結果、森すぐる会員（研究課題「身体障害者による公共交通機関利用権確立運動」）が採用されました。森会員へは助成金 180,000 円が支給（助成金目録を島原先生より贈呈）されました。

議案 6 2004 年度事業計画・創立 20 周年事業についての提案

- ・創立 20 周年事業（資料 4）が提案され、記念事業 1 については上岡会員、記念事業 2 については土居会員を中心に進める、その他については別途検討を継続することが承認されました。

資料 1 : 2003 年度収支決算（自 2003 年 7 月 1 日～至 2004 年 6 月 30 日）

(1) 2003 年度事業会計決算（単位：円）

収 入			
摘要	予算額	決算額	増減
前期繰越金	500,746	500,746	0
会費	700,000	734,000	310,000
寄付金	0	50,000	1,000,000
会誌売上	5,000	23,500	12,890
受取利息	10	39	27
雑収入	0	10	99,751
合計	1,205,756	1,308,295	102,539

支 出			
摘要	予算額	決算額	増減
大会費	100,000	154,580	54,580
通信費	220,000	276,215	56,215
印刷費	30,000	24,900	-5,100
会誌制作費	600,000	222,280	-377,720
特別事業費	10,000	0	-10,000

部会活動費	40,000	6,706	-33,294
国際交流費積立金	100,000	100,000	0
事務費（振込手数料等）	90,000	72,812	-17,188
予備費	15,756	0	-15,756
次期繰越金		450,802	450,802
合計	1,205,756	1,308,295	102,539

(2) 2003 年度国際交流特別会計決算

収 入		支 出	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	13,343	国際交流費	92,240
今期繰入金	100,000		
受取利息	3		
寄付金	0	次期繰越金	21,106
合計	113,346	合計	113,346

(3) 2003 年度研究奨励基金特別会計決算

収 入		支 出	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	1,000,000	今期支給額	180,000
今期繰入金	0		
受取利息	29	次期繰越金	820,029
合計	1,000,029	合計	1,000,029

資料 2 : 2004 年度事業計画

- (1) 2004 年度研究大会・総会を開催する（候補地＝富山）
- (2) 会誌『交通権』第 22 号を発行する。
- (3) ニュースレター『トランスポート 21』を発行する。
- (4) 各ブロック毎に部会活動その他の活動を行う。
- (5) 創立 20 周年事業を行う。

資料 3 : 2004 年度予算（自 2004 年 7 月 1 日～至 2005 年 6 月 30 日）

(1) 2004 年度事業会計予算

収 入		支 出	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	450,802	大会費	100,000
会費	730,000	通信費	280,000
寄付金	0	印刷費	25,000
会誌売上	20,000	会誌制作費	580,000
受取利息	40	特別事業費	10,000
雑収入	0	部会活動費	25,000
		国際交流費積立金	100,000
		事務費	80,000
		予備費	842
合計	1,200,842	合計	1,200,842

(2) 2004 年度国際交流特別会計予算

収 入		支 出	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	14,506	国際交流費	100,000
今期繰入金	100,000	予備費	14,511
受取利息	5		
合計	114,511	合計	114,511

(3) 2004 年度研究奨励基金特別会計予算

収 入		支 出	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	820,029	研究助成交付金	200,000
今期繰入金	0		
受取利息	10	次期繰越金	620,039

資料4：20周年事業（案）

- ・記念事業1：『数字でみる交通権（仮）』の発行
交通権をできるだけ計量化したデータ集とし、この20年間に国民の交通権がどのように変化したかを定量的に検証する。
- ・記念事業2：「交通基本法シンポジウム（仮）」の開催
交通基本法の実現に寄与することを目的とする活動をおこなう。
- ・記念事業3：学会誌の特集
20周年という節目を踏まえた特集号を編集発行する。
- ・その他：『交通権事典』、『交通権辞典』等の発行
交通権とそれに関連する重要な用語を選定し、解説をまとめる。

II. 理事会からのお知らせ

以下のことがらが理事会にて決定／確認されました。

(1) 20周年記念事業の企画について

- ・書籍（『数字でみる交通権（仮称）』）編集発行と記念行事（『交通基本法シンポジウム（仮称）』）実行に大別し、前者を上岡、青木、後者を土居、日比野、小山で担当する。
- ・書籍（『数字でみる交通権（仮称）』）編集発行は；2005年7月の総会で中間発表、2006年7月の総会で完成品の披露とする。
- ・記念行事（『交通基本法シンポジウム（仮称）』）は、国会での交通基本法法案制定を促進するための、当学会で可能な活動の一環として考える。具体的な形態と計画は更に検討をすすめる。

(2) 学会誌『交通権』各号の電子化を進めます。

- ・バックナンバーの在庫が希少となった号がありますので、これを機会に既刊全号を順次、電子ファイル（スキャナで読み取った画像をそのままPDFファイルにする）化します。これに伴い、バックナンバーの販売は、順次、電子ファイルのダウンロード（有料）に変更することにして、詳細の検討を進めます。（新規の学会誌はこれまでどおり印刷物として発行します。）

(3) 学会誌執筆者への「抜き刷り」配布を取り止めます。

- ・学会誌『交通権』は、制作費の低廉化、制作期間の短縮等のために、工程を全面的にDTP化しました。このため、従来の制作工程が大幅に変更されております。

この状態で「抜き刷り」を制作するためには、そのために新たに必要な段取りが多く存在するために、高額のコピー費用が必要になります。

したがって、「抜き刷り」の制作配布を取り止めます。執筆者各位におかれましては、該当頁をコピーすることで対応いただきますようお願いいたします。

(4) 学会誌掲載論文の個人ウェブサイトへの転載は出典明記でOKとします。

- ・学会誌に掲載された論文を、執筆者のホームページへ転載したいという希望があります。学術論文であり、論文の著作権は執筆者にあることから、転載はOKとします。ただし、出典を明記してください。

・商業出版物への転載については、著作権が学会にあることから、事務局へご相談願います。

(5) 学術会議登録の準備を進めます。

登録できるタイミングにあわせるべく準備をすすめます。登録のためには、学術的レベルの高い研究（論文）実績を積上げる必要があります。そのため、会誌掲載研究論文に関しては、前号からレフリーによる査読をおこなって、レベルの向上を目指しています。会員各位にはより一層の研鑽をお願いいたします。

(6) 新たに幹事をお願いしました。

- ・国府田諭会員（関東）、岡本勝規会員（次回開催地）に幹事をお願いしました。

(7) ホームページの維持について

- ・ホームページの維持・更新作業には、上岡直見会員（事務局長）に加えて、榎田基明会員（幹事）に参加していただきます。

(8) 南海電鉄貴志川線に関する会員からの要望について

- ・南海電鉄貴志川線の動向が気になるところです。会員から「交通権学会として、廃止を何とかして欲しい」との要望がありましたが、客観的状況、地元の意志等を学会へ報告していただくことが先決です。その上で、学会としてすべきことがあれば検討することになります。

(9) 名簿データの充実について

- ・本学会の基礎資料たる会員データの充実が必要ですが、調査用紙の回収が進んでいません。特に、学術会議登録には必須のデータです。未返送の方は、至急、お送りください。

(10) 来年度の研究会・総会について

- ・来年度の研究会・総会は2005年7月23～24日、富山（会場は富山国際会議場を交渉中）にておこないます。

III. 特別部会（交通権学会の成果を普及する＝交通権の思想の普及）活動報告

- ・山火会員（理事）より下記の報告がありました。

〔標記のテーマをみんなに広げるために、学会誌21号に掲載したほぼ同じ内容の文章を、東京・長野・新潟・富山・岩手の交通問題の住民運動と取組んでいる人々へ送りました。その結果、次のような反応がありました。〕

①東京＝在来線を守る全国連絡協議会

昨年、交通基本法民主党案について、国会議員会館で民主党から交通基本法民主党案について説明を受けた。かねてから、山火さんから提起されているように、「交通基本法」の検討を再開できるよう条件を整備していきたい。（「在来線を守る全国連絡協議会」の新しい方針）

②岩手＝民話のふるさと遠野市での住民運動 お母さんたちが中心になってバスの空白地域にバスがくるようになった

東京から移住したガラス絵作家の児玉房子さんが中心になって、地域の有力者の人たちも巻き込んで、市長を動かしてバスの空白地域にバスがくるようになって、生活の足を実現した。（交

通権のこと、バスのことについて、児玉さんとは数回手紙のやりとりをしています)

「今日のはうれしいニュースです。署名をもらって市長交渉をし、1年後にバスが実現しました。1日3本(行き2, 帰り1)と少ないですが実現しました。私に『あなたのおかげでたすかりました』『このバスを維持するために、毎日乗っている』と、会う人ごとに言われとても楽しい雰囲気です。山火さんから交通権の理を教えていただき、自信をもって交渉したからです。この地域にとっては、バスが来るということは歴史的なことなのです。“視野はグローバルに、行動はローカルに”を実感しました。」

③岩手=盛岡市年金者組合・宮手毅さん

「交通権に関する草稿ご恵送いただき感謝いたします。盛岡では、この4月から高齢者のための無料バス券(年間5000円)(盛岡市の年金者組合が10年ほど前に実現した交通弱者を支援する制度)が廃止されました。阻止運動の弱さを自覚しています。『老人のため』だけでなく、貴兄方の主張である『移動の自由=交通権の思想』がなかったことを反省しています。真理は必ず自己を貫徹する精神を堅持した運動の必要を痛感しています。」

④富山=波辺眞一さん

来年度の交通権学会研究大会の富山開催が正式に決定したことを報告し、来年度開催にあたって、地域の人たちに「交通権」の思想を広げるための事業の展開を打診した。」

IV. 学会誌/ニューズレターの原稿を募集しています

・学会誌『交通権』, ニューズレター『トランスポート 21』の原稿を募集しています。学会誌への投稿は、便宜上、まず大会で報告された方に学会誌担当理事から依頼していますが、報告の有無と関係なく、どなたでも投稿できますので、研究成果を積極的に投稿お願いします。

・学術研究としてまとまった論文は『交通権』へ、観察した事実の報告や時事問題に対する意見感想等は『トランスポート 21』へお送りください。

・なお、学会誌『交通権』掲載に際しては、レフリーによる査読があります。

◆ 学会誌『交通権』執筆要領

- (1) 締切: 第22号(2005年2~3月発行予定)掲載の論文は、2004年9月30日(必着)でお送りください。
- (2) 字数: 図表込みで12,000~20,000字(400字詰め原稿用紙30~50枚)
- (3) 体裁: 下記をお守りください。
 - ①横書き
 - ②項目立てはI(ローマ数字), 2.(アラビア数字), (3)(丸括弧つき数字), ④(丸囲み数字)の順とする。
 - ③注は末尾に一括して掲載。注の表記, カタツキ(上ツキ)は, 1), 2), …

とする。

④引用, 参考文献で欧文献を使用する場合は、イタリック等の指定をすること。

・著書の場合は署名をイタリック指定する。

[Anthony Downs, *New Visions for Metropolitan America*, The Brookings Institution, 1994.]

・雑誌論文, 編著書の場合は論文名を“ ”で囲み, 雑誌名または編著書名をイタリック指定する。

[Martin Wachs, "Learning from Los Angeles: Transport, Urban Form, and Air Quality", *Transportation*, Vol. 20, 1993.]

(4) 送り先: 160-0022 新宿区新宿6丁目15-17 安藤陽

e-mail: ando@eco.saitama-u.ac.jp

(5) その他:

①原則としてワープロ原稿(打ち出し原稿とFD)で入稿してください。FDはWordまたはテキスト形式としてください(それ以外の場合は機種を明記してください。Wordへの変換が出来ない場合は、打ち直しをするため、掲載に時間がかかる場合があります)。e-mailで送られる場合も、打ち出し原稿とFDを必ず提出してください。

なお、FDは必ずコピーをお手元に残してください。

②図表の作成については、編集上の負担を減らすため、次の点にご配慮願います。

・可能な限り電子データで作成し、原稿に添付してください。

・データ取り込みの都合上、ワード・一太郎よりもエクセルで作成願います。

・サイズは最大で横14cm×縦20cm程度です。過度に細かくサイズが大きいものは、印刷時に縮小されて判読困難になります。実際の仕上がりを想定しての作成をお願いします。

・過去の学会誌を参考にして、数字などが読み取れるようにサイズを調整して下さい。

・エクセルでグラフを作成すると、自動的に色が割り振られますが、学会誌はモノクロ印刷ですので、色別が判読しやすいようにパターンを適宜修正して下さい。

③「論文」にはレフリーによる査読があり、その結果により「論文」の訂正をいただく、または、掲載が出来ない場合があります。また、「報告」についても、「読みやすく」の観点から注文がつく場合があることをご承知おきください。なお、レフリーにより「掲載可」となった後の修正はできません(明白な誤字訂正は除く)。

◆ ニューズレター『トランスポート 21』執筆要領

- (1) 締切: 特に設けません。
- (2) 字数: 図表込みで2,000字(400字詰め原稿用紙5枚)程度
- (3) 体裁: 『交通権』と同じ
- (4) 送り先: 336-0022 さいたま市南区白幡 3-1-9, 2-607 藤井憲男
e-mail: EZK03047@nifty.ne.jp
- (5) その他:
 - ①原則としてワープロ原稿(打ち出し原稿とFD)で入稿してください。FDはWordまたはテキスト形式としてください(それ以外の場合は機種を明記してください。Wordへの変換が出来ない場合は、打ち直しをす

るため、掲載に時間がかかる場合があります)。

②内容によってはレフリー(相当)に依頼して掲載可否の検討をおこないます。その結果により内容の訂正をいただく、または、掲載が出来ない場合があります。なお、レフリーにより「掲載可」となった後の修正はできません(明白な誤字訂正は除く)。

V. 本会の行事案内

◆関東部会からお知らせ

関東部会の本年度第1回は『2004年10月30日(土)13時～17時 青山メトロ会館』です。この会では、まとまった研究結果の発表だけでなく、研究途中で行き詰まってしまった/研究を開始したいが方法の見当がつかない等々の「研究上の問題を発表して、出席者が智恵を絞る」ことも行いたいと考えています。発表をご希望の方は下記連絡先へご一報願います。
連絡先: EZK03047@nifty.ne.jp (藤井憲男)

VI. [投稿] 南海貴志川線見学報告

和歌山在住の会員より、南海電鉄貴志川線の廃止問題が浮上していることより、学会として何か対応できないかとの意見があった。これについては、議事録のとおりであるが、まず現状の把握が必要であるので、大会翌日に現地を見学した。

図1は、沿線の人口分布状況である。和歌山駅側の3分の1程度しか DID (和歌山駅周辺のハッチング部分) がなく、これまで他所で存続に成功した路線の事例に比べると、たしかに苦しいところがある。しかし実際に乗車して見学した印象では、沿線にマンション、学校などがあり、対策次第で増客が可能であると思われた。

【図1: 沿線の人口分布状況】

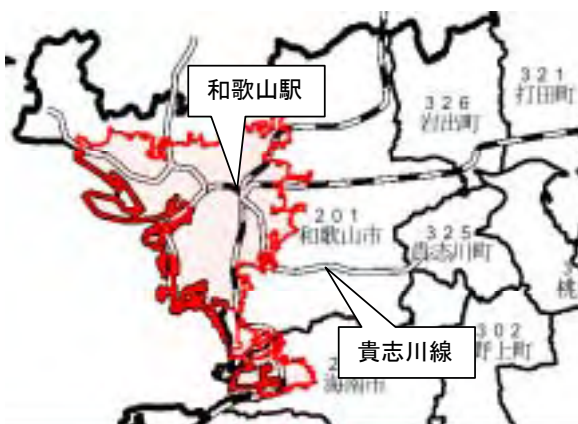


写真1, 2は、和歌山駅ホームと車両、貴志駅の様子である。ワンマン車両が2両編成で使用されている。貴志駅には商業集積がほとんどない。

図2(次頁)は、沿線の道路ネットワークおよび交通状況である。地方鉄道線の存続を根拠づけるものとして、最近では費用便益分析が注目されている。多くの場合、道路交通に転換した場合の、時間損失が最も大きな項目になるが、それは沿道の道

路状況に左右される。

まだ詳細に計算していないが、道路交通センサス(一般交通量調査)のデータからみると、並行する道路は、特に和歌山側で現在でもピーク時走行速度が低く、鉄道を転換した場合、道路の渋滞がいつそう加速されると考えられ、社会的便益として鉄道の存在をアピールできるものと思われる。

ところで、貴志川線の和歌山駅ホームに、写真3のように変な設備がある。せっかくラッチ内(無改札)乗換えになっているのに、JRの磁気券の入出場処理に使うために、自動改札の片側を設置しているのである。狭い通路で歩行の邪魔をしているし、JRと相互に乗り継ぐときに磁気券の入出場処理を忘れて、JRの降車駅あるいは次にJRに乗る際に、不正乗車扱いとなり厄介なことになるであろう。互換性のないシステムのために、移動の連続性が阻害されている典型例である。[上岡直見]

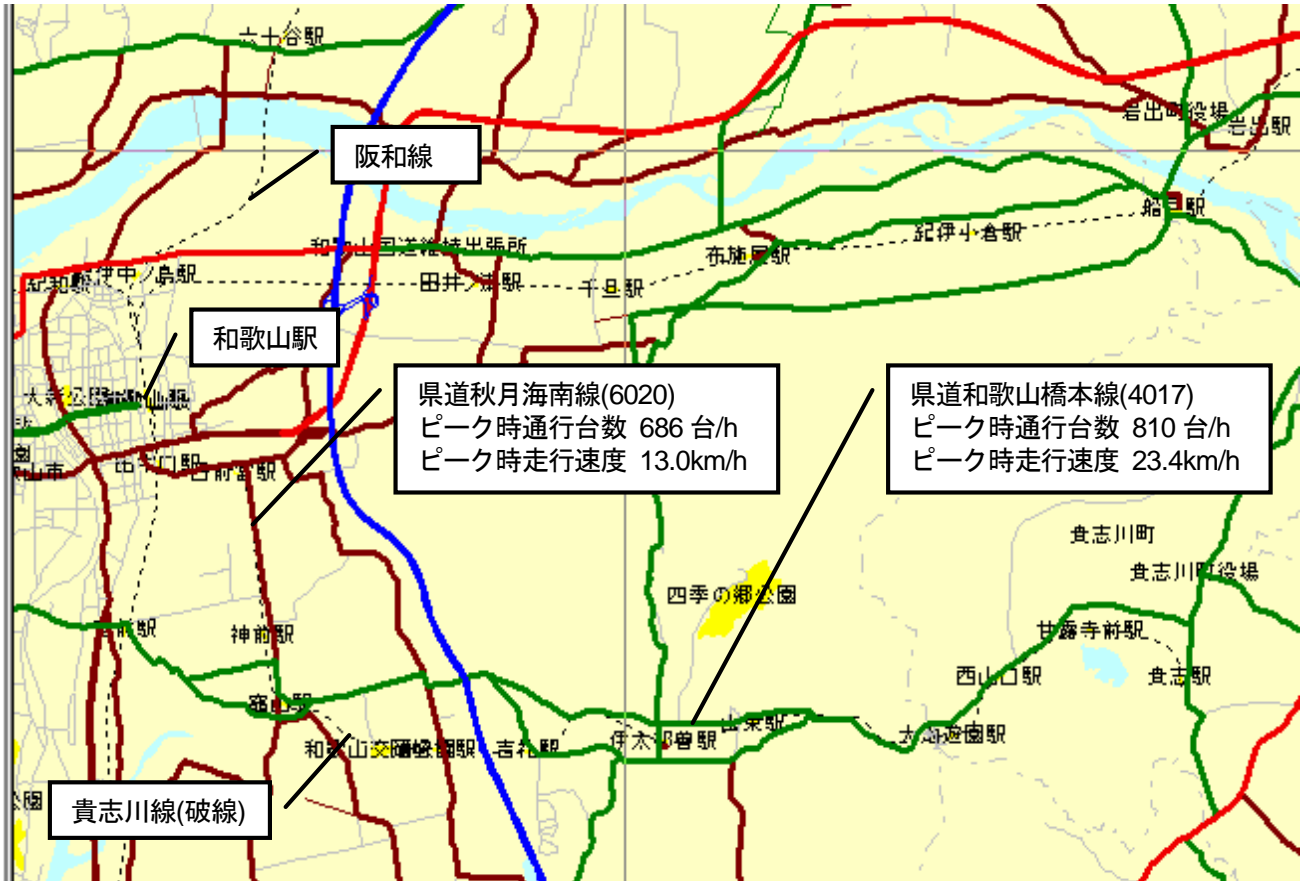
【写真1: 和歌山駅ホームと車両】



【写真3: 和歌山駅乗換口の自動改札機】



【図2：沿線の道路ネットワーク及び交通状況】



Ⅶ. 情報ファイル

事務局がキャッチしている情報です。皆様の活動にお役立てください。

- ◆2004年8月8日：「鉄道まちづくりサミット in 常陸太田」
 会場：常陸太田生涯学習センター ふれあいホール
 費用：資料代1000円
 12:45～13:00 表彰式（市民フォーラムで募集した写真・絵画・思い出等）
 13:00～13:30 基調講演と日立電鉄再生プラン発表 上岡直見（鉄道まちづくり会議）
 13:30～14:50 パネルディスカッション 山田稔（茨城大学助教授）、小祝慶紀（国士舘大学・東京家政学院大学講師）、渡辺博則（高校生徒会連絡会高校生）、常陸太田市民、日立市民
 なお、前日（8月7日）にエクスカッション「日立電鉄でゆく歴史の旅；13:30 JR大甕駅集合；500円」と交流パーティ「日立電鉄存続交流パーティ；18:00～20:30；常陸太田市まいづる；5000円」があります。

申込み・問い合わせ先：日立電鉄線を存続させる市民フォーラム事務局 電話 0294-36-5111 e-mail : kaze@jsdi.or.jp
<http://homepage3.nifty.com/sustran-japan/datafile/events.htm>

◆2004年8月21日：「これからの地球温暖化対策～京都議定書の目標達成と国内対策」（申込みが必要です）

【<http://homepage3.nifty.com/sustran-japan/datafile/events.htm>】

■皆様もご存知の行事がありましたらお知らせ下さい。

日立電鉄線存続報告書ができました。

ダウンロード→

トランスポート 21 第 19 号
 発行日：2004年8月1日 発行者：交通権学会事務局
 〒102-0083 千代田区麹町 2-7-3 半蔵門ウッドフィールド 2階
 環境自治体会議環境政策研究所内 電話：03-3263-9206
 ファクシミリ：03-3263-9463 e-mail : sustran-japan@nifty.ne.jp
 編集担当者：曾田英夫、藤井憲男、上岡直見
 Home Page : <http://www009.upp.so-net.ne.jp/kotsuken-gakkai/>